

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学
学長選考会議（平成29年度第1回）議事要旨

- 1 日時 平成29年11月29日（水）13:00～13:45
- 2 場所 奈良先端科学技術大学院大学 事務局3階 会議室
- 3 出席者 小山、田中、矢嶋、小笠原、松本、橋本、太田、垣内、箱嶋、中島の各委員
欠席者 野間口委員、板東委員、寶學委員
出席監事 西村監事、野口監事
陪席者 石川企画・教育部長、西山企画総務課長
- 4 配付資料
資料1 平成29年度学長選考会議委員一覧
資料2 議長及び議長代行の選出について
資料3-1 学長の業務執行状況の確認方法（平成27年度学長選考会議決定）
資料3-2 学長の業務執行状況の確認（平成29年度業務執行分）について（案）
資料3-3 ヒアリング内容について
資料4-1 学長の任期について
資料4-2 学長の任期についての意見等（平成27年度及び平成23年度学長選考会議）
資料4-3 学長任期と中期目標期間との関係
資料4-4 学長任期の現状（平成29年6月現在）

議事に先立ち、事務局から委員の紹介が行われた。

5 議事

(1) 議長及び議長代行の選出について

事務局から、資料2に基づき、本会議の議長の選出について説明が行われた後、国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学学長選考会議規程第4条第1項の規定に基づき、委員の互選により、矢嶋委員が議長に選出された。

また、同条第3項の規定に基づき、議長代行として、議長から小山委員が指名された。

(2) 学長の業務執行状況の確認（平成29年度業務執行分）について

事務局から、資料3-1～3に基づき、学長の業務執行状況の確認（平成29年度業務執行分）について（案）の説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

(3) 学長の任期について

事務局から、資料4-1～4に基づき、学長の任期について説明が行われた後、意見交換を行った。

（主な意見等は、次のとおり）

- ・若い大学ということで新陳代謝が活発な方が良いという考えもあるが、奈良先端大も創設後25年を経過し、一定の歴史を持つ大学になりつつあるので、4年という短い任期である必要はないのではないか。
- ・学長任期の4年は、科学技術の進展に即応するためということだが、これは学長任

- 期が6年になっても特段問題は生じないのではないか。
- 近年、国立大学は、運営費交付金の削減、大学の統廃合、定員削減など、種々の課題を抱えており、これらのガバナンスが学長に求められてきている。このことから、中期目標・中期計画期間に合わせて学長任期を6年とし、その中で自身の立てた目標に向けて職務を全うできるようにするのが良いのではないか。
 - 学長任期を4年から6年に一気に変えるよりも、4年+再任2年でしばらく行い、定着した時点で、再度検討するのが良いのではないか。
 - 大きな組織改編をするには6年というスパンが必要ではないか。
 - 学外者を学長とする場合は、任期4年で職務を全うするのは難しい。学外者が学長になるという可能性を残しておくのであれば、学長任期は6年が良いのではないか。
 - サイエンスの活性化や科研費獲得などを目標として、奈良先端大の持っている力を更に強くするというビジョンで今後も進むのであれば、今の学長任期である4年を継承しても良いだろう。ただし、これからの国立大学に求められる役割を十分に考えて、結論を出す必要があるだろう。
 - これまで学内の理事や副学長が学長となっているが、この理事や副学長の中の助走期間があった上で、4年間全力で学長の職務を全うするという形になっている。この助走期間を含めると学長任期は4年でも短くはないのではないか。
 - 次期から学長任期を6年にする、経験が最も必要とされる中期計画の実績報告と次期中期計画の策定を、就任1年目の学長が行うことになるため、これが良い周期かは疑問である。
 - 学長任期を開始する一番良いタイミングというものはなく、中期目標・中期計画期間と連動しない今の学長任期である4年としても問題ないのではないか。

以 上